

地域社会に貢献

新型コロナウイルスの影響により、昨年度まで、オンライン等で授業を行っていましたが、感染防止対策に努め、2年ぶりの対面授業となり、実技の授業では体育館やグラウンドでの授業も行い大学には活気が戻ってきております。そして、休業をしておりますが、コンビニも再開し、学食も昼食時には多くの学生たちが集まり、賑わっております。

また、大学の取り組みとして、女子硬式野球部では、地域活性化と女子野球の発展を願って加須市にて酒米の田植えから仕込みまで携わり、1年以上かけて日本酒を完成させました。農家の方々と交流で地域社会に貢献し、さらなる活性化を目指しました。

日本酒は、酒米の最高峰山田錦で醸した純米大吟醸は、飲んだ人に明るく軽やかな気持ちになってほしいという想いから「明軽」と名付けられました。



卒業生の活躍、魅力あふれる大学

校友会会長 高井 勝弘



今年も多くの若者が大学の門をくぐりスタートしました。新型コロナウイルス感染の収束は見通せず、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻など世界情勢も揺れ動いている厳しい環境下であるが、同窓生が活躍しており、大変うれしく思います。ボクシングでは、昨年の宇津木秀選手に続き、日本バンタム級1位に堤聖也選手が8回47秒、レフェリーストップによるTKO勝ちを収め、同王座獲得に成功しました。また、陸上女子1000、2000mで日本歴代2位の記録を持つ高橋萌木子（ももこ）さんが、引退後に三郷市へ帰郷しスポーツトレーナーの活動をスタートしたと新聞記事に掲載され、多くの同窓生が、活躍されております。

大学内では、硬式野球部が春季リーグ戦1部リーグにて、1部ベストナインと最多勝利投手賞に選手が選ばれるなど、今年度も数多くの賞がいただけることに期待しており、様々な部門で寄せられることを願っております。そして、3年ぶりに開催予定である、大学祭「HIC Fest」にて校友会では、同窓生を招き講演会を行う予定です。皆様のご参加をお待ちしております。



学校法人 佐藤栄学園
平成国際大学 校友会会報

英知

第14号

2022年9月発行

令和4年秋

平成国際大学 学長 柏木 俊彦



この原稿を書いている令和4年8月になっても未だに新型コロナウイルスが収束するどころか第7波の最中です。

20世紀初頭のスペイン風邪（当時はウイルスを知らなかったが実はウイルス）が収束するのに3年を要したのですから、当時とは比較にならないほど世界的規模での人の交流がある21世紀の現在、簡単に収束しないのかもしれない。更に、この夏は、世界的規模での猛暑、干ばつ、豪雨といった異常気象のニュースがあります。また、ウイルスは、新型コロナウイルス以外にも自然界には無数に存在することです。

人間は、その生存の根拠を自然に置く身であり、自然を征服などできるものではなく、手入れをしていくだけでも大変なことです。人間は、自然（ピュシス）との調和を努力して維持することなしには、地球上で長期的に安全に生存し続けることはできないことを人間に対して知らせているようでもあります。

「少子化」の危機

校友会顧問
法学部教授 浅野 和生



2021年に日本で生まれた子供は81万1604人で、出生数が確認できる1899年以降で最少だった。一方で世界人口は、本年11月に80億人を突破するという。つまり、世界は少子化していないので、人口減少の日本は、世界の中で存在感が薄まっていくばかりだ。ところで、2020年10月に1ドル105円だった為替レートが、2022年7月には140円に達しているから、ドル換算ではこの2年で日本の資産が4分の3に縮小したことになる。人口でも経済でも世界の中の日本は小さくなっている。

大学界にとって「少子化」は真の危機で、大学の存続は容易ではない。平成国際大学としては、教育、研究、課外活動の充実とともに努力を傾け、就職支援を強化して、社会的評価、存在感を保っていききたい。

さて、卒業生諸君は、日頃の業務を通じて世界における日本が存在感を失わないように貢献するとともに、日本が消え去らないためにできることに取り組んでいただけるよう期待する。